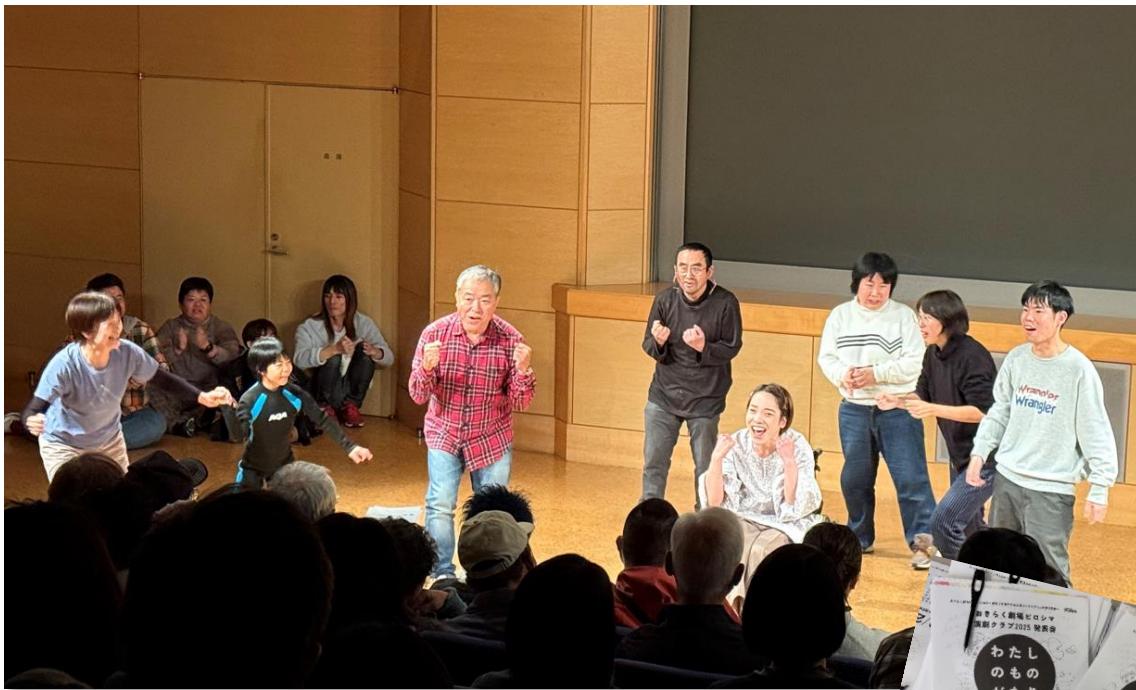


「(一社) 舞台芸術制作室無色透明」の活動を見学しました

2025年12月21日(日)に、合人社ウェンディひと・まちプラザで開催された(一社)舞台芸術制作室無色透明主催の「おきらく劇場ピロシマ 演劇クラブ2025発表会」を見学しました。



(一社)舞台芸術制作室無色透明は、広島市における地域文化の活性化と芸術のある暮らしを普及することを目的とし、2010年に結成された団体で、2016年度より、障がいのある人たちを対象とした演劇ワークショップ事業にも取り組んでおられます。

今年度は、「おきらく劇場ピロシマ2025～地域で多様性のある場づくりをする人材育成事業～」として、子どもたちが自ら行動を起こす力を育むことを目指し、地域社会に貢献する未来のリーダーを育成するとともに、障がいのある人もない人も主体的に参加する演劇ワークショップと公演を実施しておられます

今回は、「わたしのものがたり」と題し、参加したみんなで作った脚本をもとに、21人の俳優の皆さんが楽しい劇を演じてくださいました。お稽古は数か月前から全5回、公演前には毎週末の土日にしてこられたそうです。

当日は10:00から13:30まで、場面ごとのリハーサルが続けられました。そしていよいよ開演15分前の13:45には、会場前に多く方が、今か今かと開場を待っておられました。受付の「開場します！」

とのお声を合図に客席に入ると、「こんにちは！」
「いらっしゃいませ」「●●さん！ようこそ～！」と、俳優の皆さん。「こんにちは！」「楽



しみにしてるよ！」「頑張って！」と温かい挨拶が交わされます。

そして、いよいよ 14 時の開演の時が。110 席余りあった座席は 9 割程度埋まる盛況ぶりです。開演前にドキドキするとおっしゃっていた俳優の皆さんには、これまでしっかりとお稽古してこられた成果を堂々と発表されます。元気よく、そして時には小さな声で、感情表現も豊かです。また、最初の一言が出にくい人のセリフも待つ



たり、タイミングが外れる人がいてもみんなでフォローし盛り上げたり。また、会場からの飛び入り参加も受け入れてくださるなど、一部即興劇にも対応、観客もどんどん物語に引き込まれていきます。効果音には、生ギターの演奏やパーカッションが添えられ、盛り上がります。最後は観客の皆さんも一緒に手拍子とともに大合唱。ステージも観客席も一体となりボルテージは MAX に！興奮冷めやらぬうちに幕が下りました。俳優の皆さんはステージを後にされ来場者を見送るために会場の外へ行かれた後に、団体代表理事の岩崎さんが挨拶されました。「私の演劇の師匠が『100 回の稽古より 1 回のステージ』とよく話していました。ワークショップだけでなく、発表の場を作ることによって演者はより達成感を感じるかもと思い、発表会をすることにしました。そして、今回からジュニアファシリテーター制度を立ち上げ、若い人たちに運営側にたずさわっていただいている」と公演開始の背景や取り組みの工夫点について語ってくださいました。ジュニアファシリテーターは、高校生から 20 代半ばまでの方が活動しておられるそうです。その内のお一人が「これまで演者としてステージに立っていたけれど、運営側を経験することで、これまで気が付かなかった多くのことに支えられてステージはできているのだと知ることができた。学ぶことが多いです」と感想を話してくださいました。まさに、当団体が目指されている、「次世代の地域リーダーを育てる」に繋がっている良い事業だと実感しました。今後のさらなる取り組みも楽しみにしています。

(本郷)

